



山口大学共同獣医学部同窓会

青山会

会報 第三号

令和三年度

目次

・会長挨拶	2
・学部長より	3
・青山会よりお知らせ	4
・新任教員より	5
・OB より	6~12
・研究室の“いま”	13
・進路状況, 編集後記	14

会長挨拶



青山会会長
深町 輝康 (V16)

厳しいコロナ禍にもかかわらず、同窓生の皆様におかれましてはますますご清祥のことと拝察申し上げます。また日頃より本同窓会の活動にご理解とご協力を賜り誠にありがとうございます。

青山会誌第3号は多くの関係各位並びに事務局の多大なご尽力により、刊行できたことを大変うれしく思います。様々な分野でご活躍中の同窓生の皆様方々より、ご寄稿賜りありがとうございます。心より御礼申し上げます。

昨年に続き今年もコロナ禍に振り回された一年でした。不幸にもコロナ災害により、健康被害、経済的ダメージに遭われた方には心よりお見舞い申し上げます。獣医学部も授業、実習、研究、セミナー、学会など、その実施の面で大変ご苦労されたことと思います。

このコロナ禍にもかかわらず獣医学部は、様々な課題に挑戦しています。国際水準の獣医学教育を実施（2019年6月“EAEVE”の国際認証を取得）中で、日本における獣医界の先頭を走っています。また佐藤学部長のリーダーシップのもと、国際交流を地道に進めています。インドネシアIPB大学（旧ボゴール農科大学）とさらに交流が深まり、またアフリカ・ナイロビ大学、スペイン・サラゴサ大学、イギリス・エジンバラ大学などとの交流、連携、交換留学などが計画されているとのこと（獣医学部ホームページ、2021年度、獣医学部長からのメッセージ“纏う”から）。

うれしい受賞が二つあります。共同獣医学部の田浦保穂教授（特命）が、「産業動物臨床における画像診断技術の普及活用に関する実証的研究」で、本年4月、「令和2年度日本獣医師会獣医学術賞」を受賞しました。また水野拓也教授（臨床病理）は「犬の悪性腫瘍に対する新規治療法の開発とその臨床応用」で、第164回、日本獣医学会賞を受賞しました。おめでとうございます（獣医学部ホームページ：<https://www.vet.yamaguchi-u.ac.jp/whatsnew.html>）。

本年4月に発出された緊急事態宣言、及びまん延防止等重点措置は、9月30日をもって全都道府県で解除されましたが、「リバウンド」や、今冬に予想される「第6波」が心配です。引き続き、感染再拡大防止の為、気を緩めることなく、慎重に対応したいところです。

今年（2021）8月、東京オリンピック&パラリンピックが開催されました。コロナ感染拡大が続く中、様々な困難な状況で、一部（開催について）反対の声も聞かれましたが、過去最高のメダル（金27、銀14、銅17）を獲得しました。またパラリンピックは過去2番目のメダルを獲得（金13、銀15、銅23）しました。2020（+1）東京オリンピックは大成功だった

と私は感じています。世界一を競う競技において、選手は勿論のこと監督、コーチ、また多くの関係者の血の滲むような努力の結果だったと思います。オリンピックのモットー“Faster, Higher, Stronger”に今年“Together”が、加わりました。“より早く、より高く、より強く、そしてともに”。バツハ会長は“Together”にどのような意味を込めたのか？ 戦い終えた多くの日本選手が異口同音に言っていた「みんなに支えられて」は、私には“Together”に重なり、日本人選手の「チームワーク、思いやり、感謝」等の気持ちが込められていて、とてもさわやかな感じがしました。

本年10月4日、岸田内閣が発足、本学獣医学部同窓生山際大志郎（1996年農学部獣医学科解剖）衆議院議員が大臣（経済再生担当）に就任しました。

獣医学部のみならず、山口大学にとっても大変な慶事であります。同窓生はじめ教職員など関係各位には多大なご支援を賜り有難うございます。

山際先生は東大大学院で獣医学博士を取得後、神奈川県内で動物病院を開院しました。その2年後に自民党に公募する形で、神奈川県18選挙区から立候補し見事、初当選しました。当時山口大学在京農学部同窓会（会長：清水吉弘先生、練馬区開業）が中心になり「衆議院議員・獣医師山際大志郎君をお応援する会」が作られました。会長には本好茂一先生（J3、日獣大名名誉教授当時）、副会長、清水吉弘先生（V9）に、ご就任頂き、深町輝康が事務局を担当。獣医界（林良博先生、東大教授当時、山根義久先生、日本獣医師会会長当時、手塚泰文先生、東京都獣医師会会長、当時）等、多数の方々から多大な応援をいただきました。激しい選挙戦を戦い抜き、現在当選6回を重ねております。その間、党副幹事長、党税制調査会幹事、党政調査会長代理等の要職や、また内閣では経済産業副大臣、衆議院内閣委員会委員長等多数の要職を務め着実に、大臣への地歩を固めてまいりました。

山際先生は明るく、人格高潔、誰からも好かれる人柄で、実行力があり学生時代から大いに将来を嘱望されていました。山際先生には、激動する内外情勢下にあつて、強いリーダーシップで日本の正しい針路を切り開いていただきたいと祈念しています。

山口獣医専、農学部獣医学科の時代を経て、獣医学部昇格、その凡そ80年の歴史を受け継ぎ、獣医学部同窓会（青山会）は3年前（2018年3月）発足しました。現在農学部同窓会所属の獣医系同窓生の皆様には、獣医学部同窓会への移行をお願いしています（会費1,000円/年、20,000円で終身会員、同窓会加入の案内参照）。

凡そ2年に及ぶコロナ騒動は感染症、疫学の観点からも、獣医師への社会的ニーズはますます高まりつつあります。会員相互の親睦を図り、大学と緊密に連携し、これまでと同様山口大学獣医学部と手を携え、車の両輪として、同窓会目的の具現化にまい進したいと考えております。

皆様のご健勝を心からお祈りすると同時に、これからも同窓会活動への変わらぬご理解ご協力のほど重ねてお願い申し上げます。（2021年11月）

令和3年度共同獣医学部の近況報告



共同獣医学部長
佐藤 晃一

山口大学共同獣医学部同窓会・青山会の皆様におかれましては、ますますご健勝のことと存じます。

昨年の会報においては（2020年10月）、コロナ禍での本学部の教育研究における取組について御報告させていただきました。その後、コロナ感染は第3波、4波、5波とその広がりを見せましたが、幸いにも、共同獣医学部から一人の感染者も出さず乗り切ることができました。そして2021年10月以降はようやく落ち着きを見せ、キャンパス内も通常生活に戻りつつあります。とはいえ、第6波の到来が予想されることなどから、気を緩めることなく、マスク着用と3密回避などのニューノーマル生活が常態化しつつあります。

さて、共同獣医学部では、2019年の欧州獣医学教育機関協会（EAEVE）認証取得後も、その成果を武器に様々な取組にチャレンジし、着実に成果を出しています。

2020年度には、日本学術振興会の「大学の世界展開力強化事業」に採択され、「アジア・アフリカにおけるOne Health問題の解決に向けた感染症対策を担う獣医師育成プログラム」を開始しています。本事業は、共同獣医学部とケニアのナイロビ大学獣医学部の連携を軸に、アジア・アフリカにおける獣医学教育・研究の連携を進展させ、One Healthに関する諸問題のうち「感染症」に焦点を絞り、学生が相互交流によりグローバルな視点から学ぶことで、この分野に貢献する獣医師を育成するプログラムの構築を目指しています。コロナ禍での取組であることから、なかなか円滑な交流はできていませんが、来年度には学生の交流も始めたいと考えています。
(<https://ds0n.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~sekaitenkai/>)

また、2021年度には文部科学省の「デジタルを活用した大学・高専教育高度化プラン（Plus-DX事業）」に採択され、近年の

懸案事項であった遠隔講義システムの一斉更新が可能となりました。本事業には、山口大学として、シラバス管理システムの改革を目的とした「ジブンの学びをデザインできるAI支援型LMSの実現」（取組①：学修者本位の教育の実現）と、共同獣医学部が主体となり、VR（Virtual Reality）を用いた実験・実習の導入を目的とする「デジタル技術を活用した知の教授と技の伝承による智の育成」（取組②：学びの質の向上）の2つの取組を申請し、全国でも数少ないダブルでの採択となっています。本取組により、次世代型マルチハイフレックス遠隔講義システムの構築のみならず、さまざまなVRコンテンツの作成に加え、3次元ホログラムと5G高速通信を使ったMR（Mixed Reality:複合現実）による実習システムの構築など、近未来的な実習の在り方にもチャレンジすることになります。
(https://www.mext.go.jp/content/20210311-mxt_senmon01-000013151_1.pdf)

このように、共同獣医学部ではコロナ禍においても学生を第一義とした体制を構築し、少しでも良い教育研究環境を提供できるように、様々な取組を行っています。一方、学生の中には、コロナ禍で自身のアルバイトや保護者の方の生活状況が変化してしまい、苦しい生活を送らざるを得ない状況の方もいます。現在、山口大学では「新たな日常」においても明日の日本を担う学生らが夢をあきらめることがないように、山口大学基金を更に充実させようとしています。そのため、寄附による税制上の配慮や手続きの簡便化のためのクレジットカード決済等ができるようになっていきます。本学の学生、ひいては青山会の学生が心置きなく勉学に勤しむことができるよう、皆様の温かいご支援をいただければ幸いです。

(<http://www.yamaguchi-u.ac.jp/kikin/application.html>)

最後になりますが、令和3年度10月に発足した岸田内閣で、本学農学部獣医学科を卒業（1995年3月）された山際大志郎さんが経済再生担当大臣に就任されました。獣医学科より大臣が就任されたことは、党派を超えて喜ばしいことですので、ここに祝福の意を表させていただくとともに、今後のご活躍を祈念いたします。

青山会からのお知らせ



1. 山口大学ホームカミングデー2021 について

山口大学では、卒業生との繋がりや地域の方々との絆を深めること、卒業生や地域の方を大学に歓待することを目的に平成 25 年度からホームカミングデーを開催しています。

第9回ホームカミングデーは、令和3年10月30日（土）にオンラインで開催されました。12月現在でも多くのコンテンツをオンデマンドにて視聴することができますので、ぜひ御覧ください。

<http://www.yamaguchi-u.ac.jp/alumni/hcd/2021.html>

共同獣医学部では、①青山会 深町会長よりご挨拶 ②佐藤学部長よりご挨拶 ③総合病性鑑定センター (iPaDL) のご紹介 ④研究活動紹介 1 (獣医臨床病理学研究室 『イヌのがんに対する新たな治療法の開発に向けて』) ⑤研究活動紹介 2 (獣疫学研究室 『マダニが媒介する SFTS の予防を目指して』) ⑥研究活動紹介 3 (獣医生化学研究室 『がん発生のメカニズムを分子レベルで解析』) の6つのコンテンツを視聴可能です。

2. 令和二年度白衣着衣式について

青山会では、運営の一環として在学生の積極的な支援を行いたいと考えております。その一つとして昨年度同様、5年生の白衣着衣式への支援を行いました。

現在、5・6年次の臨床実習の参加のためには、医学部、歯学部、薬学部と同様に、共用試験 (Computer Based Testing: CBT および Objective Structured Clinical Examination: OSCE) に合格する必要があります。山口大学では、無事試験を通過した学生に、臨床に携わる自覚を促すという意味で白衣授与式を行っており、青山会はこの白衣の費用を負担しております。

青山会では上記以外にも海外での勉強会への援助など、様々な学生支援を模索中です。青山会へのご入会ならびに会員の皆様よりのご理解、ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



白衣着衣式の様子 谷センター長よりの挨拶



白衣着衣式の様子 学生代表の宣誓



新任教員より



獣医外科学研究室 助教

ねもと ゆき
根本 有希

2020年12月に獣医外科分野の助教に着任いたしました根本有希です。2016年から2019年まで臨床病理学研究室に助教として在籍、その後出身の東京に戻ったものの、ご縁があり再び山口大学で教員生活を送ることになりました。多くの方が驚かれたことと思いますが、私を優しく迎えてくださった教員や事務関係の皆さまには感謝の気持ちでいっぱいです。臨床病理学研究室で水野先生や大学院生、学生と過ごした毎日は、今でも私の宝物であり、教員として働く楽しさ、大変さを学んだ場所でもあります。これからもその経験を生かし、より一層充実した毎日を過ごせるよう、研究、教育、診療と精進していきたいと思っております。どうぞよろしくお願いたします。



2019年 卒業生と

青山会の皆さんこんにちは、 そしてさようなら

坊っちゃん動物病院（愛媛県松山市）院長
吉澤 直樹（V27）



青山会の皆さん、こんにちは。私は昭和 54 年卒、そして昭和 56 年に修士課程を修了しました。農学部獣医学科家畜外科学教室出身で、大塚先生に 4 年間お世話になりました。卒業色紙の真ん中に「[Rome wasn't built in a day.](#)」大塚先生が私に贈ってくれた言葉であります。「努力と忍耐が君にはありません。もっと真剣に励め！」すっかり先生は私の性格を見抜いていました。そして現在、よわい 64 歳になりましたが、まさに大塚先生の予想通りの人生を歩んできたのではないかと自覚しています。当時流行語だったモラトリアム学生がそのまま成長してしまい、今に至っているような気がします。大塚先生に紹介された「徳山市立動物園」の動物園獣医師としての公務員生活は、とても自由で居心地がよく、9年9か月間も続きました。

その後小動物診療への独立の道を目指して転身し、大阪で 2 年半余り修業したのち、1995 年 12 月 25 日に故郷の松山市で開業して、はや四半世紀が過ぎました。私と動物看護士 5 人（家内を含む）で運営する小さな小動物病院ですが、これまで良き患者さんとスタッフ、そして愛する家族に恵まれて、何とか生き残っています。ワンマンプラクティスは良くも悪くも自己流にこだわりがちになります。最近はインターネットの普及で、動物の診療に関する情報量も格段に増え、役に立つ知識を選んで実践し、うまくゆくととても嬉しいです。また古くなった医療機器を買い換えてスキルアップしたり、どんどん便利になってゆく新しい機器を導入し、それを使いこなしてゆくことは、経済的にも技術的にも大変苦労しますが、いざ導入すると、画像もきれいで診断もより容易になり、手術道具も進歩してずいぶんと楽になりました。このように実践してきた動物とのかかわりは長いのですが、ふと振り返ってみると、今まで私は肝心の獣医学の進歩と発展には、何の寄与もしていませんでした。

ただ時の流れに身を任せ、自身の生活に追われる毎日でありましたが、それでも人並みに家族を養ってこられたのは、ひとえに時代に恵まれたのではないかと思っています。顧みれば 1964 東京オリンピックに始まり、大阪万博(EXPO'70)、そして「日本列島改造論」へとつながり、高度経済成長を体感した日本人が最も勢いのある時代に、自身の学生生活を送ることができたのは幸せだったと思います。さあ、還暦も無事超えたことだし、ここで一念発起、恩返しのため、これまで何のボランティア活動もしたことがない私でしたが、何か社会の役に立つことをしようと考えました。そこで考えついたのが、コロナ禍で 1 年延期された 2020 東京オリ・パラの出場選手全員の苦労をねぎらって、1964 東京オリンピックの 1000 円銀貨を、銀メダルとして贈呈しようと考えました。

さっそくオークションなどで集めに集めた 1125 枚の 1000 円銀貨を、手ずから 1 枚 1 枚シコシコと磨いてコインケースに入れてみると、まるで新品のようにピカピカと美しい輝きを放ち、これはきっと、もうもらう人は嬉しいに違いない、最低でもランチ代くらいには使えるので、参加賞になると思いました。そこで、2021 年 5 月の連休明けにはまだ開催が確定していませんでしたが、小池百合子東京都知事あてに「1125 枚の 1964 東京オリンピックの 1000 円銀貨を寄贈したい。」との趣旨内容で、3 枚の硬貨サンプルとともに「ゆうパックライト」で建白書を送ってみました。しかし返信はなく、スルーされちゃいました。ちょうど東京都はコロナ禍の開催を危ぶんで、てんやわんやの状態だったので、たぶん担当の主任さんか係長あたりの机の引き出しの中で静かに死んでいるのだと思います。とても頂上にいる小池さんの目に触れるところまでは上ってはいけません。想像するに東京都庁の職員にとっては、どこの馬の骨ともわからない者から、このような提案を受けても迷惑だったのかもしれない。



単純頭の私が今回の試みから得た教訓としては、少なくとも何か事を成し遂げて実績をもった、ひとかどの人物になっていないと、現実世界では相手にもされない日本人の在り方と社会情勢とを改めて思い知らされただけでした。とどのつまり、私がひらめいたナイスな発想、「草莽の一希」は「妄想の一記」に終わりました。私の数少ないシンパに配っても、まだ 1000 枚余り残る 1964 東京オリンピックの 1000 円銀貨はどこへ行けばいいのでしょうか。ネットで話題になって、中国人の富裕層あたりが欲しがると面白いのですが、無理

でしょう。皆さん、何かの利用価値としてピカッとひらめいたら、ぜひ教えてください。

さて、前回の農学部同窓会会報で、久しぶりに恩師大塚先生の文章を目にしました。「片山望さん（V2.卒）を偲んで」のタイトルでした。大先輩である片山さんは、私がかつて勤務していた徳山市立動物園創設からの中心人物であり、数々のりっぱな業績を残しました。そして約10年後、その手腕と発想力を見込まれて、宮崎フェニックス自然動物園開設のために抜擢され、そこで園長として長年貢献された、私の最も尊敬する動物園人です。私自身は毎年の年賀状の交流のみでしたが、その年賀状にいつも一言、激励の一文を頂いておりました。その片山さんへの追悼文（心を打つ名文でした）を書かれた大塚先生は、まだしっかりしている、大丈夫と思えました。

実はごく最近、広島で開業している一級下の森川君がとても大塚先生に会いたがっており、一緒に会いに行こうと誘われました。同行者として彼の同期で大の仲良しの「らっきょ好き」の酒井君や、宇部で開業している「魚を迷子にした」イクちゃん、などの下西コンビも誘ってみます。コロナ禍が一段落したあかつきには、陣中見舞いとして、宮崎へと馳せ参じたいと思っていますので、先生、どうかそれまで元気でいてください。そして我々に向かってまた、「このバカが！」と叱ってくださいませ。私事ですが、現在鳥取大学農学部共同獣医学科2年生の娘が、将来この「坊っちゃん動物病院」を継ぎたいと言っており、そのためには私もまだあと10年は最前線で頑張らないといけません。このあたりのタイミングで、大塚先生に「喝！」を入れてもらわないと、とても気張れません。

私は長年の怠惰な生活のせいで「高血圧と糖尿病と慢性の腰痛」を患っております。おまけにこの古き頭は、近年の急速な世界情勢の変化と最近の日本人の価値観とモラルの移り変わりについても、素直に受け入れがたく、ついてゆけません。今後のネット関連のインベーションなどは息子たちや、若い人たちの教を請いながら勉強してゆこうと思いますが、時代遅れで老化の進行というハンディキャップを背負い、自らが弱者の身になって初めて弱者を知った次第です。私としては、これからの10年間で新たな人生の幕開けで、本当の試練と努力が試され、人としての価値が決まるのではないかという気がします。めげずに真剣に歩めば、ローマを造るのは無理でも、ロマンティックな人生を送りながら、断捨離をして、終活していければいいと思っています。

はてさて編集担当の酒井君、こんなものでよろしいでしょうか？せっかくだと指名を頂いたのにたいして面白いものもかけず、文才のなさを嘆いております。

ところで「青山」を辞書で検索すると「墓地」と書いてありました。この縁を機会に私も奮発して一括で20000円を支払い、「青山会」の終身会員になろうと思います。これで「永大供養」してもらえるの

なら安いものです。私の周りの山大卒の獣医さんたちにもおすすめしようと思います。ただ私自身は「青山会」の名前の解釈を「青春時代を山口大学で過ごした同志の会」と、受け取りたいのです。「一期一会」、わが亡き母の好きな言葉でした。この文章を目にした青山会のほとんどの方々とも、おそらく今後もう二度とお会いすることはないでしょうが、拙いハレンチな雑文を最後まで読んでいただきありがとうございました。

この世は「盛者必衰」、「諸行無常」。「草莽は死なず、ただ枯れるのみ」。どんな人も「ゴールは同じ」ならば、いずれ大気のチリとなるその日まで、お互いに精いっぱい自分らしくはかない命を全うして燃え尽きようではありませんか！「君も逝くなら僕も逝く！」、青山会のOBの皆さん、私はV27卒の吉沢直樹です、半沢直樹ではありません。ちなみに父親の名は吉沢亮でした。今年のNHK大河ドラマの主人公「渋沢栄一」役の役者さんではなく、しがない地方の銀行員でした。まあ関係ないか。皆さん、「こんにちは、そしてさようなら。」であります。



私の原点



香川大学医学部組織細胞生物学 教授
医学科長・副学部長
荒木伸一 (V30)

私は、獣医師養成過程が修士課程を含めての6年制教育に移行した最初の年、1978年に30期生として入学しました。なぜ山口大学の獣医学科を選んだのかというと特別な理由はなく、受験雑誌をパラパラとめくり「なんとなく気に入った」という感じです。今のようなオープンキャンパスもない時代で、受験まで山口県にも一度も行ったことがありませんでしたし、獣医師についての情報もありませんでした。しかし、この選択に後悔したことはありません。私は大阪市内の殺風景な街中で生まれ育ったので、都会の生活には未練はなく、むしろ豊かな自然と動物に囲まれた広大な土地でのキャンパスライフにあこがれを持っていました。実際に山口に来て初めてキャンパス内でホトギスやウグイスの鳴き声を耳にし、下宿アパート近くの小川で蛍の群れが飛び交う幻想的な様子を目にしたときには、とても感動したことを覚えています。獣医学科生は、概してユニークで破天荒な人が多かったように思いますが、おかげで楽しく充実した学生生活を送ることができました。私にとって何より良かったのは獣医学専門教育に入って解剖や生理など基礎獣医学の学びのなかで学問としての興味や面白さを感じとれたことです。高校生当時は、勉強は受験のためだけにやらされているとしか思えず、苦痛であったのですが、獣医学を専攻したおかげでその苦痛から解放され、むしろ学ぶ喜びを知れたのですから人生において大きなターニングポイントであったと思います。

さらに私の人生を決定づけることになったのは、4年生からの卒論研究です。学問分野としては、微生物学や病理学に興味があったのですが、無性に獣医解剖学講座に引きつけられ第一希望で即

決。私は、以後40年ずっと解剖学ですから、運命の力だったのでしょう。獣医解剖学講座には、木脇教授(故人)と牧田助教授(故人)がおられましたが、研究は専ら牧田先生の指導の下、電子顕微鏡と組織化学の手ほどきを受けました。私は、ミトコンドリアATPaseの酵素活性を組織化学染色で検出し電顕でその局在を観察するという試行錯誤でやっていましたが、偶然、ペルオキシソームの膜にもATPase活性があることに気づき、牧田先生に写真を見せたところ、これは新発見なので学会で発表しようということになりました。顕微鏡の世界の中には、まだこのような偶然の発見があるということを感じ、すっかりはまり込んでしまいました。しかしこの頃は、これが自分の職業になるとは思っていませんでした。卒業までに4回学会発表させて頂いた記憶がありますが、解剖学会の時に組織化学の権威として知られていた京都大学医学部第2解剖学の小川和朗教授(故人)を紹介して頂き大学院博士課程へ進学する機会を得ました。

当時の山口大学の獣医には博士課程がありませんでしたので、研究を続けるには他学の博士課程に進学するわけですが、山大獣医解剖から京大大学院へ進学した先輩として藤本和先生が講師(故人)、酒井真弘先生が助手(現開業)、小川和重先生が一年上の院生(現大阪府大教授)でおられましたので、牧田先生門下は京大第2解剖学講座の一大勢力となり非常に心強く感じました。京大で教授から貰ったテーマは、酒井先輩から引き継いだマクロファージのオートファジーに伴うリソゾーム動態の電子顕微鏡解析でした。山口で培った電顕と組織化学の技術は大変役に立ちました。京大では教授とはめったにお目にかかれるものではなかったのですが、研究は、先輩の先生方に相談しながら自由に行うことができました。結局、オートファジーの研究をしている際に偶然ヘテロファジーに伴う管状リソゾームの出現に気づき、これが博士論文となりました。当初の研究目的とは多少異なる方向に進みましたが、教授からはお叱りを受けることもなく、国内外の特別講演のネタに使って頂いたり私にも執筆の仕事を振って頂いたりしたので気に入って頂いたのだと思います。

当時の大学院生の就職先は、教授から提案(=命令)されるというのが一般的でした。私は、大学院最終学年の春頃に「愛媛大学医学部第1解剖学の助手(今の助教)の席が空いたからどうだ」と提案され、夏にフェリーに乗って松山を訪問しました。高島庸一郎教授(故人)が港に迎えに来てくださり、そのまま車で海に連れて行かれ、教授と二人で岩場を泳ぐというシュールな面接でしたが、幸い泳ぎは得意な方だったので直ぐに採用が決まりました。あとから聞いた話ですが、研究室ではかつてウニの卵の発生をしていたので、ウニの採集のために海に潜れるかどうかが重要だったようです。教授からは、卵か卵巣で電顕の研究をしてくれると有難いが、京

大の研究を継続しても良いと言われたので、マウス卵巣の ATPase の論文の一つ書いて、その後はリソゾームの研究を続けることができました。結局、海に潜ることは一度もありませんでした。愛媛大学では、教育分担が肉眼解剖学でこれがハードだったのですが、ここでは深夜（人によっては朝）まで続く厳しい獣医解剖実習の経験や知識が役立ちました。獣医学生時には医学部の解剖実習はもっと厳しいらしいと聞いていましたが、それは嘘でした。牧田先生の獣医解剖実習が最強です。

愛媛大学在籍中に 1990 年と 95 年に二度米国に留学する機会を得ました。一度目は失敗でした。研究に自由度がなく、試行錯誤をする余裕もなく、他にもいろいろ不幸が重なり半年で打ち切る決断をしました。二度目は、自分で行き先を探しマクロファージのファゴサイトーシスやリソゾームの研究で有名なハーバード大学の Joel Swanson 博士のラボへ行きました。結局これが最大の転機となりました。今も続けているファゴサイトーシス・マクロピノサイトーシスのライブセル（生細胞）イメージングによる分子機構解析はここに端を発しています。この時も、元の研究プロジェクトから外れた偶然の発見でした。滞在期間はわずか 10 か月でしたが、ここで書いた PI3kinase に関する論文は、J. Cell Biol. の表紙にもなり 700 回以上引用されています。Joel との出会いは奇跡的な幸運です。一度目で失敗しなければ二度目の留学は無かったですから。

帰国して間もなく、高島教授が退官となり、京大の小川名誉教授も亡くなられ、路頭に迷うのかと思いましたが、ほどなくして香川医科大学第 2 解剖学（現香川大学医学部組織細胞生物学）の波多江教授から声をかけて頂き、1997 年 38 歳の時に助教授（准教授）として転任することができました。波多江教授とはほとんど面識はなかったのですが、山大獣医の印象がよほど良かったようで、教授以外のスタッフ 3 人も山大獣医出身の時期もありました。ここでも有難いことに今までの自分の研究を自由に継続させて頂くことができ、科研費をもらって蛍光ライブセルイメージングシステムを立ち上げることができました。ライブセルでの解析はその後数年でブームになりますが、これに先駆けて着手することができたのはハーバードへ行ったおかげでしょう。世界のトップ研究者たちがグルになって研究の流れを起こしていることを実感しました。

2007 年に波多江教授の後任として教授に就任しました。「医者でないと医学部教授になれない」とよく言われますが、多くの教授選考会議に携わってきた経験から言わせてもらおうと、教育と研究に不安がなければ候補から排除されることはありません。自分もまじめに教育に取り組んでいて良かったなと思います。獣医が医学科長をするのは、やや気が引けたのですが、医学科の中で最も多く講義と実習に参加し、学生のことはよく知っているという自負はありましたので、学生生活指導と教務担当の仕事と割り切って引き受けました。カリキュラム改革や認証評価の受審など大変な事業があり、

研究と比べると楽しい仕事ではありませんでしたが何とか無事に 4 年務めています。基礎研究は、直ぐ社会に役立ちませんので、学部運営や医学教育を通じてより良い医師を社会に送り出すことは、好きな研究を自由にさせてもらったことへの現世におけるせめてもの恩返し、社会貢献と考えています。

山大獣医を出て早 37 年が経ちました。私の場合、これまで獣医師免許は役に立っていませんが、山大で受けた教育、研究との出会い、先輩との繋がりによって天職を得ることができました。山大獣医は、私の原点であり人生の宝です。

公務員獣医師の職場

～動物愛護センター～

山口県動物愛護センター

河村 章 (V36)



満開の桜をバックにくつろぐモデル犬サクラ

私は平成2年大学卒業後、山口県庁に入庁し保健所（健康福祉センター）、環境保健センター、本庁など公衆衛生分野の職場を渡り歩き、今年4月から初めての職場になる動物愛護センターに勤務しています。

当センターは、平成10年4月に県民の動物愛護意識の高揚と適正飼養の推進を図るための中核施設としてオープンし、今年24年目を迎えました。

山口市陶の山あい位置するセンターは、周囲を緑に包まれ、春には建設当時植樹された150本余りの桜が咲き乱れる花見の穴場スポットになります。機会があればぜひお立ち寄りください。

職員わずか5名の職場ですが、このうち3名が獣医師（いずれも山口大学卒）です。

当センターの業務の柱は「動物とのふれあいの機会の提供」、「動物とその適正な飼養に関する情報提供」、「動物の保護に関する業務」の3本です。

まず、動物とのふれあいの機会の提供では、主に幼児や小学生低学年を対象に、実際に犬や猫、モルモット等にふれ、鼓動やぬくもりを肌で感じ、動物への接し方・命の大切さを学ぶ「動物ふれあい会」を開催しています。ふれあいの順番を待つ子供たちのまなざし、動物に触れる前の緊張感、上手に触れた時の満面の笑顔、見ていっただけでこちらが幸せな気持ちになれます。最近では、ネット上に数多の動物動画がアップされていますが、やはり実体験とは比較にならないようです。

動物と適正飼養に関する情報提供では、動物飼養等に関する相談対応をはじめ、生後6か月齢までの子犬の飼主を対象にした「子犬のしつけ教室」、小学生親子がセンターで飼養している動物のお世話をする夏休みの「お仕事体験」、犬猫の譲渡前・譲渡時の「講習会」など様々な事業を展開しています。昨年来のコロナ禍の影響でこうした事業も感染防止の観点から事前予約制の個別対応を余儀なくされていますが、今後、ウイズコロナの時代を見据えた対応も必要と感じています。

また、共同獣医学部との連携の一環として、3年前から学生を対象としたシルターメディスン（動物保護施設における獣医療全般）の実習を実施しています。

動物の保護に関する業務では、負傷犬猫の収容と応急措置、市町や保健所で引取り・一時収容した犬猫の回収と処分等を行っています。平成26年度に犬猫処分数が全国ワースト3位になった山口県ですが、その後、保健所での収容期間の延長や収容犬猫情報の当センターウェブサイトへの掲載による譲渡機会の拡充、動物愛護団体等の仲介による譲渡の拡大等により処分数は大幅に減少しています。

こうした当センターの業務はまさに獣医師の本分といえますが、山口県の公衆衛生獣医師が担う業務は、獣医師の資格や知識を必要としない分野にまで広がっています。私自身、温暖化対策など環境分野の業務にも長く携わってきましたが、そうした経験を通じてより幅広い視野や新たな人とのかかわりが持てたことは大きな財産だと感じています。

最後になりますが、青山会の皆様が慣れ親しんだ山口県での公務員獣医師の仕事、自分なりに振り返るとなかなか楽しくやりのあるものですよ。



動物ふれあい会のワンシーン

日本のニワトリ ～日本鶏を活かし生かす～



広島大学発ベンチャー Gallus JAPAN 株式会社 代表取締役
竹之内 惇 (V60)

先輩および後輩の皆様、こんにちは。ニワトリ大好き、竹之内惇です。以後お見知りおき下さい。ありがたいことに、本誌にてニワトリについて紹介する機会を頂きました。そこで、日本におけるニワトリと私の仕事についてお話しします。どうぞよろしくお願いいたします。

ニワトリと日本

ニワトリの学名は「*Gallus gallus domesticus*」と、野生種を家畜化したものです。ニワトリの野生原種は遺伝子解析の結果から、中国・東南アジア周辺に生息するセキショクヤケイ（赤色野鶏）であると考えられています。

ニワトリの日本への流入は、弥生時代ごろに、中国大陸から入ってきたのではないかと、言われていますが、書物に残っているのは、平安時代からになるそうです。当時のヒトにとっては、朝を告げることから、神の使い（闇や魔を払う）として利用されました。

そして、他国の交流が増えるにつれて、蜀（中国）からショクケイ（蜀鶏）、シヤム（タイ）からシャモ（軍鶏）、チャンパ（ベトナム）からチャボ（矮鶏）が来ました。江戸時代になると、ニワトリを意図的に交配させ、様々な特徴を持つニワトリが多く作出されました。これらを日本独自のニワトリ品種、日本鶏（にほんけい）と呼びます。当時の日本鶏は食用ではなく、観賞用目的に飼育・改良されました。ニワトリは、見て（色鮮やか、尾が長い）、聞いて（美しく、長く鳴く）、競わせて（闘う）楽しむ、愛玩動物でした。本格的に食用として改良し始めたのは、明治以降になります。その後、海外企業が保有する優れた生産性をもつ商用鶏の雛を輸入・利用することで、鶏肉・鶏卵の安定生産が可能となりました。生産性は劣るが、良質な肉質をもつ一部の日本鶏は、素材鶏として利用され、地域の特産地鶏の生産に活用されています。



日本独自のニワトリ「日本鶏」

記録に残るものでも、50 品種以上の多様な日本鶏が作出されました。個性豊かな日本鶏は、品種ごとに様々な特徴を示す遺伝子を保有しています。外観に関わるものだけでも、羽の色・模様・形、鶏冠の形、目や足の色、体格、尾の長さなど多種多様です。染色体数も $2n=78$ と多く、上記のような各遺伝子の組み合わせで、何万パターンもの外観のニワトリが作れる可能性があります。これがニワトリの魅力です。

現在も、日本鶏愛好家の手によって、40 品種程は存続しています。しかし、現代では趣味も多様化し、ニワトリへの興味が薄れ、年々減る一方です。今後、研究価値や商用価値がないニワトリ品種は途絶えていくことでしょう。こういった背景からも、ニワトリのことを知ってもらおうと考えていく中で、一つの挑戦に至りました。

広島大学で新たなニワトリを作る「廣大鶏（ひろだいでり）」

私は2021年の3月まで、広島大学の都築政起教授のもとで、7年間ニワトリの研究を行ってきました。都築教授のもとでは、なんと日本鶏が30品種以上も飼育されています。日本で唯一、日本鶏の品種比較の研究が行える場所です。都築教授の知識や経験、素材力を生かし、最もおいしいニワトリが作れないかと考え、2015年頃より試行錯誤を開始しました。

そして昨年、新たなニワトリ「廣大鶏（ひろだいでり）」を作出し、広島大学の知財部において、ライセンス登録しました。「廣大鶏」は、日本鶏品種である土佐九斤（とさくきん：高知県原産）とインギー鶏（鹿児島県原産）の2品種を掛け合わせ、世代交代を繰り返しながら、優良な形質を残すよう改良したニワトリです。以下に、「廣大鶏」の特徴を説明させていただきます。



まずは、肉質についてです。コーチン系の特徴をもち、肉は黄色っぽく、臭みがなく、胸肉の旨味が濃い。そして、優れた脂質をもちます。脂肪酸組成を調査すると、不飽

和脂肪酸が70%以上あります。これは上質な脂肪を持つブランド和牛やイベリコ豚と同等です。また、不飽和脂肪酸の中でも、牛や豚のようにオレイン酸（融点13.4℃）が多だけでなく、リノール酸（融点-5℃）、パルミトレイン酸（融点-0.1℃）も豊富です。特に、ニワトリ（鳥類）は他の動物に比べ、リノール酸の割合が20%と多いため、脂肪の融点がとても低くなります。そのため、くち溶けが良く、すっきりとした脂となります。また、アンセリン・カルノシンと言って機能性成分も多く含みます。おいしくて健康的、それが鶏肉です。

次に、おとなしい性格が特徴です。肉用鶏は基本的に平飼いで群飼育されるため、性格（社会性）は重要です。臆病な性格であると、大きな音や動きに驚き、パニックとなり、お互いが押し合い、圧死することがあります。また、同時に飼育できるオスの羽数や、雌雄のバランスなども性格によります。よって、攻撃性が低く、穏やか性格のニワトリが養鶏には適していると言えます。

最後に、見た目が美しい。美しい黄色～褐色な羽毛、そして構造色（色素ではなく構造により光を反射させて作り出す）により、金色に輝くニワトリとなっています。

簡単ではありますが、以上が「広大鶏」の特徴です。

広島大学発ベンチャー「Gallus JAPAN 株式会社」を設立

広大鶏を世に出すには、法人組織が必要です。そこで、広島大学のライセンスを用いて事業を行う、広島大学発ベンチャー「Gallus JAPAN 株式会社」を設立しました。経営を成り立たせると共に、広大鶏を守っていかねばなりません。

（現在、広大鶏は「季節料理なかしま」さんにて、食べることができます。）

東広島市の特産品「東広島こい地鶏」

産官学（広島大学、東広島市、民間企業）の連携で、東広島市の特産品となる地鶏「東広島こい地鶏」が開発されました。雄系種鶏「広大鶏」と雌系種鶏「ロードアイランドレッド」を交配させ、得られた子供（雑種）を「東広島こい地鶏」と呼びます。2品種を交配させることで、旨さと生産性を兼ね備えた地鶏となりました。

多くの場合、公設試験場が主体となって地鶏の生産を行っていますが、本事業ではすべての業務を民間企業が行います。原種鶏

業務（広大鶏の維持・育種）、種鶏業務（東広島こい地鶏の雛を生産）、コマース鶏生産（東広島こい地鶏を飼育）、食鳥処理場のすべての施設を東広島市内に新設することから始め、地鶏事業を立ち上げます。Gallus JAPAN 株式会社は原種鶏および種鶏業務を担います。

今後、市場に東広島こい地鶏が出回った際には、ぜひ食べてみて下さい。

新規開発された「東広島こい地鶏」の特徴

広島県初
JAS地鶏
(予定)




研究成果をもとに
ノウハウを知財化

広島大学
知財登録


東広島こい地鶏

【広島大学の研究力】

- ・「広大鶏」が父親（雄系種鶏）
- ・最先端技術で種を保存
- ・地鶏の生産ノウハウを知財登録

【肉質】

- ・くちどけの良い上質な脂肪酸
- ・機能性成分が豊富
- ・美味しく食べて健康的

東広島市の新たな特産品「東広島こい地鶏」が完成！

最後に

日本独自のニワトリ「日本鶏」は、個性豊かな外見だけでなく、優れた肉質をもち、とても有用な遺伝子資源であると言えます。この日本鶏が多岐にわたって活用され、世界からも評価を得ることができるような事業ができればと、考えています。今後とも応援頂けますと幸いです。ありがとうございました。

研究室の“いま”

獣医微生物学研究室



研究室でのマダニ採取

獣医微生物学研究室の早坂大輔です。2019年9月に赴任してから2年が経ちました。研究室では学生も含めて飲み会や教室旅行、スポーツ大会への参加など、いろいろ楽しもうと思っておりましたが、コロナのおかげでなかなか実現されておらず、大学、学部行事もかなり制限され、多くの学会もオンラインになり、気づけば1年半以上飛行機に乗っておらず、世知辛い日々です。

現在、研究室のメンバーは、私、下田宙准教授、事務補佐員1名、学術研究員1名、大学院生2名、研究生1名、学部生は6年生2名、5年生1名、4年生1名です。みなさん良い人ばかりで、仕事も熱心に真直にこなし、素晴らしいメンバーが集っています。

研究室での研究対象は、主にウイルス感染症、人獣共通感染症、節足動物感染症です。野生動物やマダニ、蚊、ネコやイヌなどの伴侶動物や、動物園などの動物検体を対象に病原体検出、血清疫学調査などのフィールドワークをメインに活動しています。また、実験室において、診断法の確立、培養細胞やマウスモデルを用いたウイルス性状解析、病原性解析なども精力的に行っています。最近ではSARS-CoV-2も対象に、主に企業等からの受託研究や共同研究で、ウイルス不活化効果の検証や感染実験モデルを使った基礎的な研究を進めています。

なかでも重症熱性血小板減少症候群（SFTS）ウイルスやダニ媒介性脳炎ウイルス、さらにマダニから新規に見つかったウイルスなどのマダニ媒介ウイルスを対象とした研究を精力的に進めています。これらのウイルスはBSL-3実験室での取扱いが必要ですが、山口大学には立派なBSL-3実験室およびBSL-3動物実験室が設置されており、研究環境は申し分ない状況です。なんとか研究費を確保して継続して研究を発展させるべく奮闘の日々です。

また、山口大学は幸いにも文部科学省の世界展開力強化事業に採択され、共同獣医学部とケニアのナイロビ大学獣医学部との間で学生交流を基盤とした獣医師育成プログラムを進めており、獣医微生物学研究室のスタッフも中心となって参加しています。プログラムは4年間の予定であり、山口大学の学生をケニアに派遣し、ナイロビ大学の学生をこちらで受けて体験交流を行う予定です。今年度はコロナの状況で目途が立っていませんが、来年度以降、何とか学生にアフリカを体験してもらいたいと思っています。山口大共同獣医学部もアフリカに進出します。

卒業生のみなさまには今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



ナイロビ大学獣医学部にて（左から Aboqe 先生、早坂、長崎大学の井上先生、ケニアで40人以上獣医師として活動している神戸先生）

卒業生進路状況

国家試験結果

	第72回	第71回	第70回	第69回	第68回	第67回	第66回	第65回
	R2	R1	H30	H29	H28	H27	H26	H25
受験者数	30	33	28	26	30	31	31	33
合格者数	30	28	27	26	26	26	28	27
合格率 [%]	100	84.8	96.4	100.0	86.7	83.9	90.3	81.8

令和二年度卒業生進路状況



編集後記

投稿してくださった会員の皆様、また、忙しい中編集作業をしていただいた上林先生、どうもありがとうございます。多方面で活躍される皆様方の投稿を見ていると、山口大学共同獣医学部の「昔と今」を感じることができます。

さて、私事ですが、本年7月から(公社)山口県獣医師会の事務局に勤務しています。山口県在籍中は、山口大学共同獣医学部と山口県環境生活部との連携・協力に取り組みました。今後は、獣医学術の振興・普及、獣医療技術のさらなる向上に向け、山口大学共同獣医学部と本会会員とのパイプ役になればと考えていますので、どうぞよろしく願いいたします。(酒井)

毎年編集後記で謝ってばかりなのですが、今年こそ本当に謝罪が必要でした。本当に長らくおまたせをし、申し訳ありませんでした。ご寄稿いただいた先生方、ならびに関係者の皆様に心より感謝とお詫びを申し上げます。編集作業をしていると、直接お会いしたことがない先輩方の興味深いお話をじっくりと拝見でき、獣医は面白いなと感じた回でした。懲りずに来年も締め切りを破ってまいります。(上林)

青山会会報 第三号
2021年12月

編集担当
酒井 理 (V28)
上林 聡之 (V53)

山口大学共同獣医学部同窓会 青山会

事務局 (代表: 谷口 雅康)

〒753-8515 山口県山口市吉田 1677-1 山口大学共同獣医学部内 ☎ 083-933-5911

E-mail; vet-doso@yamaguchi-u.ac.jp Web; http://seizankai.vet.yamaguchi-u.ac.jp/